

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193000064		
法人名	株式会社 e-ケア		
事業所名	グループホーム あんしん・ふらの (すばる)		
所在地	富良野市末広町6-22		
自己評価作成日	平成28年11月7日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&jigyosyoCd=0193000064-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階にデイケア、保育施設、3階にサービス付き高齢者向け住宅があります。2階にグループホームあんしん・ふらのがあり、平成28年10月1日にユニット増設で横並びの2ユニットになりました。併設された整形外科医院が横にあり、医療介護福祉の複合施設で地域で安心した生活を送ることが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあんしん・ふらは、リハビリテーションで定評がある医療法人グループが運営するメディカルビル2階に位置し、デイケアやサービス付高齢者向け住宅、保育施設などと連携し、地域高齢者の生活を途切れなく支えている。今年度1ユニットから2ユニット18名へと定員を増やし、それに合わせて職員を増員している。職員への医療関連の研修が充実しており、介護の知識の向上にも外部研修を取り入れながら取り組んでいる。事業所では利用者一人ひとりに合わせた支援を目指し、標準的なマニュアルに沿ったものではなく職員が利用者に必要な支援を検討し、状況に即した介護ができるよう経験を積んだ職員がOJTを行っている。2ユニット体制になったことにより、職員の運営に対する意欲的な意見が活発に交わされており夏祭りの開催や個別外出の強化など、利用者の楽しみにつながる取り組みを行っていくことが検討されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらい			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示して理念の共有、実践につなげています。又、新人スタッフにも研修時伝えるよう心掛けています。	事業所の開設時に作成した理念があり、「寄りそう」ことを大切にして、法人名に込められた良いケアを目指している。利用者や家族目線を大切にしたいプロとして介護にあたるよう理念の共有を通して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入や地域の行事に参加させて頂き、交流をしていきたいと思えます。	事業所は、観光客も集まる商業地にあり町内会の加入者も少ない状況にあるが、利用者が参加できる行事には参加し、交流を行っている。事業所の1階には保育所があり園児が遊びに来ることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事、講演会など催し、地域の方々に理解を頂いていますが、ご家族様への協力も声かけしていきたいと思えます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催していますので、ご家族様にも声かけし、情報や意見交換の場としていきたいと思えます。	運営推進会議は家族や地域、行政などの参加があり定期的に開催している。事業所からの運営報告などを行い、会議の配布資料は出席しなかった家族にも送付している。	家族の参加が課題となっており、会議の開始時刻を変更するなどの検討を行っている。参加者拡大によって事業所の理解を促したり、改善に向けた話し合いなど広く意見を求めていくことが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域ケア会議への参加、運営推進会議への声かけなど連携を取っている。	利用者に関する事項の他、職員が気づいた地域高齢者の困りごとを役所の担当課に繋ぐなど、地域密着型サービスとしての強みを活かした取り組みを行っている。地域向けの認知症高齢者のカフェの検討なども行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や研修などに参加し、会議などで取り組んでいる。	同じ建物にある高齢者向け住宅と合同で委員会を組織しており、毎月適切なケアについて話し合いを行っている。外部研修にも参加しており、職員の経験の伝達も含め学びを深めていくことになっている。玄関は建物の構造上常時施錠となっているが、外出の希望には応じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や委員会を設けて防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、活用できるよう知識向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時、契約時に説明など十分にご理解して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、その都度意見、要望を反映できるよう努めています。また、苦情・相談・記録表の活用にて意見の反映に努めています。	電子メールや電話など家族にとって便利な方法で連絡を取り、年4回事業所便りも発行している。家族からの相談等は職員全員が把握できるよう記録簿を作成して周知を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談やその都度の意見を聞く機会を設けています。	年4回目目標管理を兼ねて自己点検を行い、職員の現状や希望を運営者まで報告している。職員が自発的に実務者研修などに参加する場合の費用補助の導入も検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談や月一回の会議などで意見を反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修会や協力施設に協力して頂き、トレーニングできる機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力施設や他の事業所、地域ケア会議などにてネットワークづくりをし、サービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居される前にご本人、ご家族に会わせていただき不安等を解消できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にご本人、ご家族に会わせていただき不安等を解消できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関やケアマネと連携を図り、見極め、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に行い、共通の価値観作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族とコミュニケーションを取りながら要望などをお聞きし、サポートできるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族からお話を聞き、支援に努めています。又、すえひろのスタッフとの連携、人員の配置などにも配慮しています。	利用者が入居前に通っていた美容室やデイケア利用の継続などを行っている。同じ建物の高齢者向け住宅からの入居者はそれまで利用していた介護サービスの担当者とのつながりも断ち切らないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性などを把握し、外出なども含め関わりあえるように支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の要望をお聞きしながら相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、会議等で意向の把握に努め、支援に活かすようにしています。	利用者の生活歴をアセスメントとして記録し、日々の思いを毎夕行っているミニケア会議でどのように叶えていくか検討している。職員の連絡ノートにも記載し、全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等の把握を行い、これまでの馴染みの生活が送れるように把握に努めています。すえひろとの連携も継続しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族から現状をお聞きし、サポート出来るように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、必要毎にサービス担当者会議、カンファレンスなどを開催し介護計画を作成しています。	毎月計画の進捗状況を検討するモニタリングを行い、3か月ごとに介護計画を作成している。利用者支援はもちろん、家族の抱える悩みも受け止め共に利用者を支えていくための視点も盛り込んだ計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や連絡ノート等の活用などにて職員間の情報共有を図り実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されている病院、サ高住、デイケア、保育施設等、多機能なニーズに取り組んでいます。すえひろ主催の「あじさいの会」への参加などにも対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方等の情報・協力を得て支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師や併設されている病院との医療連携にて支援しています。	事業所は医療法人グループの一員であり、入居前から同じ病院に継続して受診している利用者も多い。事業所は医療機関に併設されているため、医療との連携もスムーズに行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている病院があり、医療連携を取りながら支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その都度必要に応じて、情報交換や相談を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設されている病院のDrとご本人、ご家族との話し合い、地域の連携施設とも連携が出来、支援が送れる。	主治医や看護師との連携体制が確保されており、利用者と家族の希望に応じて実施を検討している。介護度の高い利用者もあり、技術の高い職員がOJTで介護方法伝えとともに、毎週看護師が勉強会を行い知識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会や勉強会などを行い、スキル向上を図っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず、職員全体が身に付けると共に運営推進会議などにて市町村、地域の方との連携を図っています。	毎年2回、昼間と夜間想定避難訓練を行っている。複合施設の2階に位置するため、上下階にあるサービスとの連携もマニュアル化されている。自家発電装置があるほか、札幌本社の応援体制も確立されている。	避難訓練は建物全体で取り組み、協力体制も構築されているが、非常時の地域との協力関係の構築は今後の課題となっている。避難訓練に地域からの参加を呼びかけていくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重とプライバシーを守りながら一人一人の安心できるような声かけをしています。	認知症研修や虐待の研修では人権尊重についても学んでいる。ケアの実践場面の中で職員一人ひとりが考えていけるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、希望、自己決定が出来るように関わりを働きかけしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、その人らしい暮らしが送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族と協力しながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セレクトメニューやご家族からの差し入れ、スタッフとの買い物等にて一人一人の好みの支援をしています。おしぼりたたみや食器拭き等の関わりも支援しています。	調理は外注業者が建物内の厨房で調理を行い、保温カートで運んでいる。利用者に合わせた除去食など食事制限にも細かく対応している。ユニットごとにおやつ作りを行うなど、参加する楽しみも提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人の状況に応じた口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人その都度状況に合わせ、話し合い対応、支援しています。	生活リハビリの一環として、立ち上がりや歩行も含めて利用者の状況を把握し、排泄動作が自分で継続していけるよう取り組んでいる。おむつやパッドを活用する場合も利用者に合ったものを選定している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人に応じた予防、取り組みを行っています。又、併設する医療機関とも連携を図っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望、タイミングに合わせて支援をしています。	基本的にいつでも対応できるようにしている。利用者ごとに週2回以上の入浴を行っており、利用者にとって信頼できる職員が介助することでゆっくりとリラックスできる時間になるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設されている病院のDr、Nsや薬剤師と共に相談し理解、支援、確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中での役割や楽しみの他、3階の「すえひろ」での交流で気分転換の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望などご家族、地域の方と協力し、支援に努めています。	地域の交流施設やスーパーに出かけ買い物やアイスクリームを食べに出かけるなど日常的な希望に応えている。外出に使用できる法人の車があり、自宅にドライブに出かけたり花見や祭りに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の希望、状況に応じて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間等は様々な工夫や季節感を取り入れ、居室には馴染みの物などを使用しています。	共用空間は2ユニットの中心に食堂が配置され、お互いの利用者が交流できるようになっている。廊下の先には利用者が落ち着いて過ごせるようソファがある。事業所内は冷暖房設備が完備されており、快適な温度に保たれている。季節の装飾などがあり、目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その都度状況に応じて対応しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を生かしながら居心地良く安心、安全に過ごせるように工夫に努めています。	居室の広さはユニットによって異なり、広い方の居室にはトイレも設置されている。各室にはクローゼットと洗面がある。利用者の力量に合わせて掃除を行ったり、職員が定期的に清掃を行い居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が送れるように工夫に努めています。		